デザイン学科・新3回生(ビジュアルサウンド領域)長嶋「準ゼミ」について

●背景

2015年4月よりSUACデザイン学部は3学科体制から1学科(領域制)に改編されました。当初は映像教員1名・グラフィック教員2名と少数だったために、当時のデザイン学部長の強い要請で、本来であればインタラクション領域に属する筈の長嶋も加わってビジュアルサウンド領域となりました。長嶋の専門はサウンドと共にインタラクティブなシステムデザインなので、最初の4年間は、3回生後期「総合演習I」・4回生前期「総合演習II」・4回生後期「卒業制作」の「ゼミ」に関する特例措置として、ビジュアルサウンド領域とインタラクション領域の両方の学生が「長嶋ゼミ」に所属できる(単位となる)、という運用がデザイン学部として了承されました(今年の新入生から長嶋はインタラクション領域の教員です)。ただし3回生前期の「領域専門演習」はこの対象外科目なので、インタラクション領域でなくビジュアルサウンド領域3回生でインタラクティブなシステム(例えば多数の短編映像集から自由に選択し再生する「装置」としてのインスタレーション作品など)に興味のある学生だけが、長嶋担当の「領域専門演習」の単位を取れます。

●従来の長嶋仮ゼミ/準ゼミの活動とは

メディア造形学科の時代には、3回生後期からのゼミに備えて、3回生前期に科目履修とは別に「仮ゼミ」制度(単位にならない)がありました。学生は複数の仮ゼミに参加可能(開催日時をずらす)で、7月末に後期「本ゼミ」を志望して決定します。長嶋ゼミでは例年、院生+4回生+3回生の混成チームで毎週水曜日2限に1106研究室に集合し、各自の進捗報告・新テーマの話題共有・卒業生作品/内外作品の紹介・自主制作/実験/試作などを支援してきました。個別指導/支援が必要な場合には水曜の午後などにアポを入れる、基本的には毎週参加が原則で、本ゼミ開催など事情がある時にはメイルで欠席連絡する、というルールでした。院生~3回生までが毎週一緒に集うことで、上級生の仕事に学び、また下級生の新鮮な視点に刺激を受けるという学年を超えた交流が長嶋ゼミの目玉です。2018年後期には院生1人+4回生2人+3回生3人の本ゼミに2回生1人が勉強のため参加交流しました。また、他の教員ゼミに所属する3/4回生が勉強のために長嶋ゼミにも並行して参加する「準ゼミ」も歓迎で、過去には仮ゼミ→準ゼミ生となった別教員ゼミの4回生が講師となってUnity勉強会も開催しました。

●2019前期デザイン学科3回生・長嶋準ゼミへの誘い

そこで2019年前期は、以下のように長嶋ゼミを運用することにしますので、興味ある学生は事前にアポをとって面談した上で、ぜひ「長嶋準ゼミ」に参加してみて下さい。対象は主としてデザイン学科のビジュアルサウンド領域の新3回生です。「領域専門演習」で学ぶコースや後期の本ゼミの選択に関しては何も束縛されません。院生が卒業した2019年前期はインタラクション領域の4回生3人のみが本ゼミ生ですので、ここに加わる準ゼミの定員は最大3人程度(要相談)とします。水曜日2~5限には前後期とも専任教員の専門科目は他にありませんので誰でも予定できます。開催は従来通り「毎週水曜2限に1106集合」が基本meeting(進捗確認・全体連絡)であり、個別の支援は水曜午後のアポで対応します。準ゼミ参加の3回生は、長嶋ゼミの先輩のプロジェクトの進展を「明日は我が身」として眺めつつ、他の専門科目の課題、コンペ/碧風祭などに向けた自主制作作品のテーマ、あるいは後期「総合演習I」のための実験/試作などを進めるテーマで参加できます。前期開講の3回生科目「音楽情報科学」(長嶋)を履修してその課題をテーマとし「1粒で2度美味しい」というのもアリです。過去には仮ゼミで試作したインタラクティブシステムをインターカレッジの機会に学外で作品発表して、最終的に改良した作品を「総合演習I」として実らせたゼミ生の実績もありました。

以上